

国立市コミュニティワゴンの評価（目標値）について

国立市コミュニティワゴンの評価については、過去の地域公共交通会議のなかで何度か議論を行ったが、今のところ、ルートあたりの一日の利用者 70 人を下回り、また、ルートあたりの費用が 900 万円を超えた場合に「抜本的な見直しを実施する必要がある」という目安が示されているにとどまっている（平成 26 年 2 月 24 日平成 25 年度第 7 回国立市地域公共交通会議）。これについて、より具体的な見直しを行うための評価方法について以下の通り整理した。

■ 1 評価（目標値）のポイント

- ・見直しのための評価を 12 月頃に行い、次年度からのサービス内容の変更に対応できるようにする。また、8～9 月頃に中間報告を行う。
- ・地域公共交通会議から市に意見を具申し、最終的に市が見直しの判断を行う
- ・重要なのは「生活の足として活用されているかどうか」。
- ・車両数や財政投入額など「一定の上限をさだめておく」ことも必要。

■ 2 評価基準（案）

2-1 評価（目標値）と基準

- ・評価レートは、A,B,C の三段階とする。
- ・A：本格運行へ移行、B：さらなる試行運行の継続、C：抜本的な見直しとし、評価基準（案）は以下の通りである。
- ・「さらなる試行運行の継続」では、ルートは概ね固定とするが、ダイヤ等については随時改善を重ねることとし、利用向上を図るための試行運行を継続する。
- ・「抜本的な見直し」については、現在の試行運行のルート、ダイヤの抜本的見直し、また、コミュニティワゴン以外の方法への移行も含むものとする。

表 1 評価基準（目標値）（ルートごと）（案）

	A	B	C
1 日あたり利用者数	70 人以上	50～70 人	50 人未満
財政投入額(年間)	550 万円以下	550～900 万円	900 万円以上
収支率	30%以上 (営業係数 330 以下)	20%以上 (営業係数 500 以下)	20%以下 (営業係数 500 超)

※A,B については原則として全ての評価項目で目標値を満たすものとするが、状況に応じた判断を行うこととする。

留意点：

- ・旧くにつこバス青柳・泉ルートの利用者数、収支との比較をあわせておこなう。
- ・高齢者、しょうがい者等の外出に寄与しているかについても考慮する。
- ・財政投入額についてはコミュニティバス事業全体での収支全体で考える。

2-2 スケジュール

- ・国立市コミュニティワゴン是最長３年間の試行運行であることをふまえ、以下の通り評価（見直し）を予定する。

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
4月 試行運行開始 12月 必要なら見直し内容の検討 次年度試行運行の判断（評価）	8～9月 必要なら見直し内容の検討 次年度試行運行の判断（評価） 中間報告	8～9月 本運行の準備〇、代替手段の検討 試行運行最終判断（評価） 中間報告

■ 3 沿線アンケート調査

- ・12月の評価のためのデータ収集のために、沿線アンケート調査を実施する予定である（10月下旬から11月）。項目の例は以下の通りである。無作為抽出によるサンプル。郵送回収。

3-1 属性

- ・年齢、性別、居住地、自家用車の有無など

3-2 現在の利用交通手段

- ・日常的に利用している主たる交通手段、および、コミュニティワゴンがどのような交通手段から転換したか

3-3 コミュニティワゴンについて

- ①認知度…コミュニティワゴンの存在を知っているか、利用したことがあるか
- ②利用実態と将来の利用意向…沿線における利用割合、利用目的、利用区間
- ③未利用者の意見…利用しない理由、利用するようになる条件

3-4 コミュニティワゴン試行運行に伴う生活の変化

- ①地域コミュニティ…新たな人とコミュニケーションが生まれたか、生活圏に変化がうまれたか
②外出支援…外出頻度が増加したか

3-5 自由回答（上記までの選択肢で把握できない要望、問題点などの把握）